

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 足原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

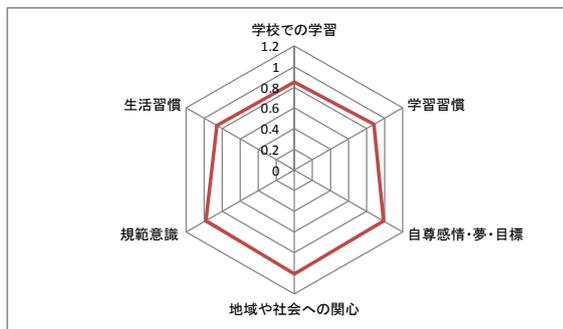
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均より若干下回っている。無解答率については、全国及び県のデータと比べると低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	主語と述語の関係をとらえ、文を正しく書く問題や慣用や敬語を正しく使う問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使う問題の正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均よりも若干上回っている。(本県平均と同じ)「話す・聞く能力」の「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える問題」は、正答率が高い。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	「話す・聞く能力」に関する問題の正答率が高い。また、「読む能力」における、目的に応じて本や文章を選んで読み、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読み終える問題の正答率も高い。	
	努力が必要な問題	「書く能力」に関する目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えるなどの問題の正答率が低い。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均より下回っている。無解答率についても、全体的に全国及び県のデータと比べると高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	除数で表すことができる二つの数量関係を考える問題と、円周率の意味に関する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「単位量(割合、百分率)」に関する問題の正答率が低い。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均より下回っている。無解答率についても、観点によっては、全国及び県のデータと比べると高いところがある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	与えられた条件などを基に、「答え」を求める問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	与えられた条件などを基に、「なぜ、そうなのか」と、根拠を明確にして理由を記述する問題の正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均よりも若干上回っている。(本県平均と同じ)無解答率については、全体的に全国及び県のデータと比べると低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「科学的な思考・表現」において、「活用に関する問題」で正答率が高い問題がある。	
	努力が必要な問題	「人体の特徴」や「電流のはたらき」において、「活用に関する問題」で正答率が低い問題がある。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「朝食を毎日食べている」や「学校のきまりを守っている」、「宿題をしている」などと、約90%の児童が回答しており、規範意識の高さや、決められたことを着実に実行することができることが分かる。また「将来の自分の目標をもっている」や「将来、人の役に立つ人間になりたい」と、約85%以上の児童が回答しており、多くの児童が「将来の自分像」をしっかりともてていることも分かる。しかし、「自分で計画を立てて勉強をしている」、「1日1時間以上の勉強をしている」と回答している児童は50%弱である。与えられた課題だけではなく、自ら進んで考え、行動する力の育成が必要である。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力の向上や学習内容の定着を図るための特設時間として、朝自習や補充学習の時間を充実させる。</li> <li>○授業力向上に向けて、授業改善を行ったり、主題研究と関連させたりしながら、「書く」「話す」「聞く」力を育成する。1時間の中や単元の中で、「書く」「話す」「聞く」場面を効果的に位置付ける。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級、学年通信や学級懇談会などを通じて、課題や本校の取組を保護者に周知し、啓発を行う。</li> <li>○家庭学習のスタンダード化を図る。家庭学習学年別設定時間を決め、宿題や自主学習ノートの活用も合わせて取り組ませるようにする。</li> </ul>
--